

臨床研究名	インフルエンザ院内曝露患者に対しての抗インフルエンザ薬予防投与の効果と必要性に関する症例対象研究
背景	2018/2019 の季節性インフルエンザは過去最大の流行をみました。当院においても院内感染者および医療職員の罹患が多数発生しました。当院のインフルエンザ院内発生時対応規定は、日本感染症学会提言 2012～インフルエンザ病院内感染対策の考え方について～に準拠し、多床室においてインフルエンザ発症者がでた時は同室者に対して抗インフルエンザ薬の予防投与を行い、また医療職員が発症し入院患者に（濃厚）接触した時は予防投与を考慮することを原則としています。しかしながら、日本感染症学会提言 2012 とは異なった考え方の施設も多数あり、議論の余地があります。
目的および方法	2018/2019 の季節性インフルエンザ流行期にインフルエンザ曝露が特定された入院患者を対象に、当院の方針の抗インフルエンザ薬予防投与が適性かを検討します。対象となる患者の入院時疾患、様々な背景因子、予防投与の有無、予防投与薬等を説明変数、インフルエンザ発症の有無を目的変数として、インフルエンザ発症にかかわる有意な独立した因子は何かを多変量解析することで特定します。
同意	観察研究 B1 に該当する研究です。大網病院院ホームページ内の感染防止対策指針に本研究内容をオプトアウトします。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本感染症学会：社団法人日本感染症学会提言 2012 ～インフルエンザ病院内感染対策の考え方について～（高齢者施設も含めて）</li> <li>2. 堀 賢. 感染対策実践マニュアル 考え方と運営のポイント第 3 版 東京, じほう, 2015, 221-231</li> <li>3. 臨床研究の種類と規制</li> </ol>

本臨床研究は、2019 年 3 月 14 日に開催された倫理審査委員会にて承認を得ました。